

第5回地域創生・人口減少対策本部会議

○日 時：平成27年12月25日（金）10：00～10：15

○場 所：特別室

【鈴木副知事】

地域創生・人口減少対策本部会議を開催いたします。
まず、企画調整部長から総合戦略について説明願います。

【企画調整部長】

それでは、お手元の資料1-1をお開きください。
地方創生版総合戦略におきましては、有識者会議におきまして1年間くらい政策策定に向けて議論を進めてきたところであり、前回の本部会議において、戦略（素案）のほうをお示しいたしましたが、今回、パブリックコメントや市町村との意見交換などを踏まえまして、「総合戦略（案）」という形にまとめてみました。

資料1-1ですが、前回素案のときにもお示ししましたが、変更点について、まず名称が変わっております。前回、福島県まち・ひと・しごと創生総合戦略としておりましたが、簡潔性でありますとか、メッセージ性でありますとか、挑戦というようなキーワード、こういったものを入れ込みまして、「ふくしま創生総合戦略～ふくしま7つの挑戦～」ということで名称を変更させていただいております。

それから、資料の中央ですね、基本目標と成果目標というものの緑、青、ピンク、橙の基本目標、その下に成果目標、数値目標を掲げさせていただいて、1番の県内に安定的な雇用を創出するとしまして、工場立地件数に加えて、安定的な雇用者数、雇用保険の被保険者数でありますけど、基本的には今後減少が見込まれている中で、それをキープするという形で目標値を設定させていただいております。

その他、ひとの流れでありますと、2020年に社会増減を±0とか自然増で言いますと2040年に合計特殊出生率2.16というも目標値として掲げているところでございます。

それから資料1-2の方をご覧ください。7つの重点プロジェクト自体は前回ご紹介させていただいておりますけど、今回一例ということで吹き出しを入れて、尚且つKPIを入れておりますので、こういう感じとなっております。

それで、1番、しごとづくりへの挑戦でございます。

(1) ふくしまの雇用・起業創出プロジェクトであります。本社機能等の移転促進ということで、地方拠点強化税制ということを含んで、それに加えてインセンティブの補助金のほうなんかも相まって支援を行うことによって、

KPI、4年間で1年1件ということを目指していきたいということでもあります。それから、若年層・女性等の起業支援でありますと、開業率というかたちで上昇を目指すとか、アウトカムよりはアウトプットに近くなりますが、会津大学発ベンチャー新規認定数というのを平成26年13件というのを平成31年これは戦略期間の終期となるんですけれども、それで累計23件を目指す。

次に(2)の「しごと」を支える若者の定着・還流プロジェクトでありますと、ひとつは高等教育機関の魅力向上ということで福島大学COC+といったこういった取組でありまして、その内容についてはアスタリスクで書いておりますけれども、KPIとして卒業生の地元定着率、平成26年度45.4%、これを平成31年度まで10ポイント上げるというようなKPIを設定しております。また、ブランド力のある企業の創出ということで、県内企業の上場企業化を事務系の就職口であったり、KPIについては、増加を目指すということですが、これは走りながらまたできれば精査していきたいと思います。

おめぐりいただきまして、農林水産業でありますと、法人の育成、誘致等、農業生産法人等の営農組織と企業のマッチングであるとか、新事業創出によります本来からの事業者等の新規雇用人数を60人目指すとか、或いは6次化産業の推進であれば、現状の商品開発数を含め440商品の開発を目指すということでもあります。

それから青い方にいきまして、ひとの流れ(4)定住・二地域居住推進の真ん中あたりにいきますと、市町村と連携した定住・二地域居住を支える環境の充実、実証モデル事業でありますと、KPI定住・二地域居住推進に係る事業による移住者を100組以上ということでもあります。

それから観光コンテンツ、下の方を見ていただきますと観光客入込数の目標値でありますとか、メディア芸術等の活用ということでありまして、聞き慣れない言葉かもしれませんが、左側のアスタリスクに記載のとおり映画、マンガ、アニメーション、CGなどこういった新しい分野の芸術の総称ということで、こういったものも活用しながらAR系なんかもやりながら累計100万人を目指してまいります。

ページおめぐりいただきまして、自然増、結婚・出産・子育てでございます。目標値について増加を目指す等なっておりますが、こちらも数値目標設定できればと思います。イクボスの普及拡大、保育施設の整備、今待機児童は400人近くいるわけですが、待機児童がいる市町村0を目指すものでございます。

また、まちづくりでございますが廃校等を活用した交流拠点の整備として廃校、空き家等を活用した交流拠点数、累計20件を目指してまいります。

今後5年間の戦略でございますが、今回補正予算であるとか一億総活躍関連の予算であるとか国のいろいろ予算を使いながら、戦略的に進めてまいりたいと思います。

【鈴木副知事】

関連して商工労働部長。

【商工労働部長】

魅力有る地域社会をつくるためには、なによりも働く場の確保が重要であります。そのため、新産業の育成等様々な取組を通して魅力有る就業機会の創出をしてみたいと考えています。更に産業を支える人材の確保、若者の県内定着・還流について、県内外の大学等関係機関との連携のもと、積極的に取り組んでみたいと思います。

【鈴木副知事】

こども未来局長。

【こども未来局長】

総合戦略の策定を契機といたしまして、これまで取り組んでまいりましたこどもの医療費の無料化、多子世帯の保育料負担の軽減、こういった取組に加えまして、若い世代の結婚・出産・子育ての希望に応えるために新たに今年度立ち上げましたふくしま結婚・子育て応援センターの充実・強化ですとか、三世代同居の支援、保育施設の整備の促進こういった取組をしっかりと展開いたしまして、人口目標の達成に向けて全力で取り組んでまいります。

【鈴木副知事】

はい。よろしいでしょうか。

それでは、総合戦略はこれを持って決定したいと思います。

最後に知事の方から。

【内堀知事】

人口目標の実現へ向けた施策などをとりまとめた、「ふくしま創生総合戦略～ふくしま7つの挑戦～」をただいま決定をいたしました。

地方創生は、いよいよこの戦略策定から具体の事業推進の段階へと移っていきます。

地方創生にとって大切なキーワード、私は2つあると思っています。1つは「郷土愛」。ふるさとへの熱い想いです。

そしてもう1つは「挑戦」。具体の実行です。この2つがなければ、地方創生は前には進みません。

先日、国の地方創生政策アイデアコンテストで、福島市の岳陽中学校が、最高賞である大臣賞を受賞しました。彼らが、この特別室に来てくれて、先日私の前で直接プレゼンをしてくれました。素晴らしい内容でした。まさに、福島市、彼らにとってのふるさとに対する郷土愛がみなぎっていました。さらにプ

ランを作るだけではなくて、中学生の目線を見た「観光ツアー」、これを実際にやりたい、挑戦したいということを懸命に語ってくれていました。

中学生自身が、ふるさとへの愛情を持ち、「自分たちでも挑戦をしたい」というこの想いを我々自身が、この総合戦略の実現の中で形にしていかなければいけません。そのためにも、県は全庁を挙げ、そして市町村とともに、さらに関係機関、国等とも連携をして、地方創生の結果を出していくよう共に進めていきたいと思えます。

よろしく申し上げます。